

平成28年度一般会計予算

賛成

- ① 一般会計予算総額は19億4千800万円で、前年度と比較して13億6千400万円の減、前年比6・4%減となっている。財源の積極的な確保を図るとともに、不急不要の経費削減、事務事業の見直しなど、歳出
- ② 組織の見直し、公共施設等総合管理計画の策定をして施設の適切な配置を推進しながら、財政負担軽減のために統廃合の推進をしている。

また、ガン検診の向上に力を入れ、健康づくりの施策、小中学校の適正規模の検討、財源確保のための企業誘致、子育て応援プランの策定、防犯灯LED化、津波避難計画の策定など、評価できることが多く含まれている。

反対

- ① 190億円規模の予算を目指すことは評価するが、決算実績に近い予算額にした手法や、補正予算に回す手法は、決算額の改善につながるものではなく、行財政改革とはいえないのではないかと懸念している。
- ② 地方消費税交付金の社会保障分が、福祉に使われている説明責任が、市民に対して果たされていないのは問題である。
- ③ 支所整備については、公民館や旧保健センターを利用する方が市民にも便利であり

経済的だ。改修計画に工夫が足りない。

- ④ 団体補助金の一律削減の手法は、団体育成の目的と矛盾するものだ。
- ⑤ 未就学児への子育て支援は評価するが、修学旅行への補助金削減などの経済的支援や、子どもの心の育ちに視点を置く子ども支援が不足している。

また、通学路で危険な道路などが残っているにもかかわらず、平成12年の交通量調査をもとに新規道路をつくることは納得できない。スクラメント視察事業においても、明

討論

また、ガン検診の向上に力を入れ、健康づくりの施策、小中学校の適正規模の検討、財源確保のための企業誘致、子育て応援プランの策定、防犯灯LED化、津波避難計画の策定など、評価できることが多く含まれている。

スクラメント視察は再度説明を

受け入れ先の2市の内1市から移住者高齢化を理由に、受け入れが断られ、本来の移住者との交流ではなく、観光色が強い計画となり、予算もふくらんでいる。文教福祉委員会では、予算額を大きく抑えることと、事業目的を後日議会で説明するよう求めた。

〔特別会計予算〕

〔国民健康保険〕

Q 今後の国民健康保険会計の見直しは。

A 28年度は、国の財政支援制度の増額等があり、一般会計の繰入を法定内の8千万円に抑えて計上できた。今後、法定外の繰入を最小限に抑えるために、ジエネリック、特定健診などのデータヘルス計画を活用し、療養給付費を抑える方向を模索する。

Q 国は、少子高齢化社会を見据え、公共下水道事業を縮小する方針ではないか。また、企業会計に変更することによる、一般会計からの繰入はどのようになるか。

A 国の方針が変わった段階で、計画の見直しをする。また、29年度に財政計画のシミュレーションも見直し、一般会計からの繰入も適正に行っていくかならない。

〔介護〕

Q 平成29年度開始の新制度「総合事業」で、市民が主体のサロン等の初期費用への補助は。

A 初期費用が必要であることとの認識はあり、現在、単価の検討をしている。

A 平成29年度に行う予定で、本部田・善太地区の一部(3・3ha)、日置地区の一部を減。藤浪駅南東の清林館高校建設予定地(4・5ha)を含める。

Q 国は、少子高齢化社会を見据え、公共下水道事業を縮小する方針ではないか。また、企業会計に変更することによる、一般会計からの繰入はどのようになるか。

A 国の方針が変わった段階で、計画の見直しをする。また、29年度に財政計画のシミュレーションも見直し、一般会計からの繰入も適正に行っていくかならない。

〔水道〕

Q 県水契約の見直しは。

A 610m³/日の減量申し込みを行い、11月末に県企業庁から基本水量の8千290m³の承認を得た。減量により、945万4千320円の減額を見込んでいる。

Q 事業計画の見直しは。

〔公共下水道〕